

令和2年度 第2回掛川市総合計画審議会 議事概要

日 時	令和2年12月11日(金) 10:00~12:00
会 場	掛川市役所4階 会議室1

■出席者（敬称略）

No	氏 名	所属・役職等	出席 状況
1	日詰 一幸	国立大学法人 静岡大学 人文社会科学部長	出席
2	小川 雅子	公益社団法人 大日本報徳社 主事	出席
3	幸田 拓也	日本電気株式会社 PS ネットワーク事業推進本部 国内スマートシティグループ	出席
4	齊藤 奈津子	島田掛川信用金庫 地方創生室 副室長	出席
5	鈴木 緑	掛川市社会教育委員会 委員長	出席
6	須藤 みやび	一般財団法人 静岡経済研究所 主任研究員	出席
7	高橋 由利子	静岡県くらし・環境部県民生活局男女共同参画課 課長	出席
8	垂門 涼子	ソフトバンク株式会社 東海 IoT エンジニアリング本部 東海 IoT 技術部 部長	欠席
9	長濱 裕作	NPO法人 かけがわランド・バンク コミュニティマネージャー	出席
10	星之内 進	一般社団法人 中東遠タスクフォースセンター 理事長	出席
11	増山 達也	公益財団法人 静岡県産業振興財団 統括事業プロデューサー	出席
12	宮地 紘樹	医療法人社団 綾和会 掛川東病院 院長	出席
13	村上 文洋	株式会社 三菱総合研究所 主席研究員	出席
14	山本 たつ子	社会福祉法人 天竜厚生会 理事長	出席
15	山本 美鈴	株式会社 山本製作所 専務取締役	出席
16	横地 静雄	掛川市地区まちづくり協議会連合会 会長	出席

発言者	発言内容
1 開 会	
2 市長あいさつ	
市 長	<p>本日は、掛川市総合計画審議会にお集まりいただき、ありがとうございます。新型コロナウイルスの状況を踏まえ、市外の皆様にはオンライン参加にご協力いただき、重ねてお礼申し上げます。</p> <p>今、私たちは、ポストコロナの新しい時代に向けて、今回の会議のようにオンライン化をはじめ、東京一極集中から地方分散の流れ、あらゆる面におけるデジタル化の浸透など、ドラスティックな時代の転換期にいます。このことから、昨年改定いたしました第2次掛川市総合計画を、ポストコロナの時代に対応した計画に改めるため、先月9日に、皆様に委員を委嘱させていただきました。</p> <p>審議会の委員の半数が市外にお住まいの方で構成されております。そのため、皆様からは、日本全体や世界的な視野で掛川市を見たご意見から、掛川市民として日々感じられている率直なご提案まで、大変厚みのあるご審議をいただいていると感じております。また、委員の皆様の客観的な視点から、掛川市がこれから取り組むべき課題や方向性をご指摘いただく一方で、掛川市の強みについてもご教示いただいております。掛川市としてもその強みを更に磨き上げ、新しい時代においても、この中東遠地域をリードし持続発展可能なまちを築いてまいりたいと思っております。</p> <p>本日は、前回の審議会でのご意見を反映させた、基本構想の素案をお示ししますので、皆様のこれまでのご経験や専門的な見地から、活発なご議論をご期待申し上げます。前回も色々なすばらしいご意見をいただきまして、役所が考えていることよりも大変広い視野のご意見をいただきましたのでしっかりと対応していきたい、今日もそのような色々な意見をいただけることを期待いたしまして、私のあいさつとさせていただきます。</p> <p>今日はよろしく願いいたします。ありがとうございました。</p>
3 議 事	
会 長	<p>会長の日詰でございます。</p> <p>本日は、2回目の審議会となります。皆様よろしく願いいたします。</p> <p>それでは1つ目の議事について、進めて参ります。</p>
議事(1)-①：ポストコロナ社会の視点について	
事務局	〈資料1 説明〉
会 長	<p>前回皆様からいただいたご意見を事務局で検討し、資料1のとおり修正したということですが、資料1について、何かご不明な点やご意見がありましたらご発言いただければと思いますがいかがでしょうか。</p>
委 員	<p>視点1の「誰ひとり取り残さない」という表現が加わることで、市民の皆様へのメッセージ性が出て、これで十分に市としての態度が表明されて非常によいと思います。</p> <p>視点2については、「質の高い生活」を実現するための手段として、新しい生活様式を実現するための必須の手段として、デジタル化を推進するという関係性が明らかになり納得性が高まったと思います。</p>
会 長	<p>その他ご意見がないようなので、審議会として資料1について承認し、今回の案で進めていただくということをお願いいたします。</p> <p>それでは2つ目の議事について、進めて参ります。</p>
議事(1)-②：基本構想改定案について	
事務局	〈資料2・3 説明〉
会 長	はじめに、資料2の1ページから9ページまでの部分について、ご意見がありまし

発言者	発言内容
	<p>たらご発言をお願いいたします。</p>
委員	<p>5 ページの人口の話ですが、人口減少社会が到達するということは明記されていますが、2025 年の目標人口は 11 万 5000 人とするとなると、どうやってこの目標人口を達成してくのかを、戦略でも書く必要はありますが、ここでも明記しておくべきです。「様々な取り組みを進めた成果」というとおのずとそうなるように見えてしまうので、「徹底的な少子化対策を行い」というような表現をちゃんと書いておかないと、少子化対策に対する危機感が希薄に見えてしまいます。ここでも、徹底的な少子化対策、少子化対策というのは単なる子育て支援ではなく、結婚したくてもできない人へのケアだとか、結婚して子どもが欲しいけれどできない人へのケアとか、色々な場面を考えることが必要で、それが少子化対策なので、そうしたことを総合的に行うということをごここできちんと書いておかないと、目標人口の達成が絵に描いた餅になってしまう可能性があるのです、そういったことを入れておいた方がいいと思います。</p>
委員	<p>3 ページの「まちづくりの基本理念」について、「互いに信頼し、支えあい、役立ちあいながら」まちづくりを推進していくということで、改めて自治基本条例の前文がここで表されているということに感動いたしました。教育についても同じで、市民総ぐるみの教育として、掛川市では保幼小中一貫教育を進めて参りましたし、それが学園化構想となり、全国に先駆けて、地域と保幼小中が互いに顔が見える形で、信頼し合って、子どもたちが地域で支えられて、多様な学習や自尊感情等も育んできました。地域の人も子供たちから元気をもったり、生きがいとなったりして地域の活性化につながってきているということが、ここに書かれている基本理念と全く同じだと思いました。自治基本条例は大変すばらしいので、ぜひ前文だけでも載せていただけたらと思います。</p>
会長	<p>それでは、戦略が重要になってきますので、11 ページ以降について、1 ページずつ進めていきたいと思えます。</p> <p>はじめに、リード文と、(1)教育・文化分野につきまして、ご意見がございましたお願いいたします。先ほど、委員から、「保幼小中」や「学園化構想」という言葉が出てきましたが、市外の方にはあまり聞きなれない言葉かと思えますので、簡単で結構ですので説明をお願いいたします。</p>
教育長	<p>「学園化構想」につきましては、始めて 8 年となります。幼稚園教育の幼児教育、小中学校の義務教育の学校教育、そして大人も含めた社会教育、その 0 歳児から大人まで含めた生涯学習ということになりますが、それぞれの世代によってどのような教育が必要かということを示した「人づくり構想」を作成し、それをもとに中学校区単位で人づくりを進めています。そのときに、小学校と幼稚園・保育園が連携しながら活動し、あるいは小学校と小学校の連携、高校まではなかなか進んではいませんが、幼児教育と義務教育について、地域と学校と家庭を結びつけて一体となって教育を進めようということで、1 つの中学校区単位で「学園」という言い方をして進めてきています。最近では、学園化構想を更に進めるために、一昨年前からコミュニティースクールも始めました。</p> <p>次に、「保幼小中」についてですが、文科省からも義務教育をつなげる連携教育を進めることを言われてきましたが、掛川市は既に学園化構想の前、市町合併の前から、連携教育を進めてきました。さらに、学園化構想をきっかけに中学校区の中にある幼稚園・保育園と学校がつながってお互いに交流したり、授業を公開し合って学校・園の様子を知ったりして、それを地域の方も参加できるようにしながら進めてきています。このように連携教育ということは十分進めてきていますが、新しい時代を迎えるにあ</p>

発言者	発言内容
	<p>たり更に高めていきたい、先ほど「質の高い」という話がありましたが、高めていくという意味では、「連携」から「一貫」へという言葉に代えて打ち出しているところです。</p>
委員	<p>前文にDXという言葉が使われていますが、DXの意味をきちんと理解して使っていただきたいと思います。DXは、単なるデジタル化ではなく、今までの慣習や制度を大きく変えることを意味します。これは当然色々な人に痛みを伴うし、大きな意識の変換・変革を求めるものです。今までのICTやデジタルと同じ意味で使うのでは物事を見誤りますので、そういう覚悟をもって言葉を使ってください。</p> <p>(1)について、これからの子ども達の学び方、先生の教え方、家庭と先生のコミュニケーションが従来のやり方と大きく変わります。その点を、総合計画の中でもきちんと位置づけた方がいいと思います。①のキーワードが「グローバル人材の育成」となっていますが、「教育DXの推進」と明記してしまい、教育を大きく変革するという覚悟をここで示すことが重要ではないかと思いました。</p>
教育長	<p>おっしゃるとおり、覚悟が必要だと思います。タブレットを1人1台配布する中で、子どもの学び方、先生の教え方を変えていかなければいけません。これは教育観を変えるということで、我々も先生方へ指導をしているところです。これまで先生方は、「どのように教えるか」ということを考えてきましたが、これからは、子どもの学び方をどうするかという視点で授業観を変えなければならないと思います。そういう意味では、「教育のDXの推進」という言葉を入れる必要、その覚悟が必要だと感じました。</p> <p>また、「人づくり構想」の改定も検討しているところですが、これまでは国も「優秀な人づくり」として進めてきましたが、これからは「有能な人づくり」へシフトしていくと捉えていますので、その核になるのが「教育のDXの推進」で大事なことだと思いますので改善して参ります。</p>
委員	<p>(1)①について、グローバルで活躍できる人材はとても大事だと思いますが、地域循環やSDGsということが言われている中で、グローバルだけでなくローカルでも活躍できるという視点が必要だと思います。また、今の表現だとグローバルな人材の方が偉いようにも読めてしまうので、ローカルで活躍できる人材についても並行して表現できないかなと思いました。</p>
会長	<p>今の社会状況だと、グローバルなところに目がいってしまっていますが、ローカルでも地元に着いて活躍できるという人材や、グローバルに活躍しつつもローカルで活躍できるという両方の側面を持った人材が望まれると思います。</p>
教育長	<p>グローバルという造語が使われることもありますが、ここで使っている「グローバル」は、地元に戻っても活躍できるという意味を含んでいます。ただ、言葉として読み取ることが難しいということもありますので、含みを持たせることで検討いたします。</p>
委員	<p>(1)①について、「市民総ぐるみ」という言葉が入りましたが、学校が地域の核のようになっていけば、子ども達は地域の方から色々なことを学んでいきます。自分の地域や掛川市についても詳しくなり、そこで学ぶことで大きな感動を得たり、地域の人たちから自分の良さを認められたりして、自分の生まれた掛川に誇りを持ち、安心できる気持ちを持つことができるようになります。そうなれば、どこで働こうと、どの国のために働こうとよいのではないかと思います。ぜひ、どこで活躍しても構わないですが、地域に誇りを持つような子どもになってもらいたいと思います。</p>
委員	<p>これから教え方が変わっていく中で、直接的な体験の大切さを(1)⑤で述べています。本物の質の高さを体感する、体でびびっと感じる、そういう体験を指していると思いますので、もう少し積極的な表現にして、その貴重さを表した方がよいのではないかと感じました。</p>

発言者	発言内容
会長	次の(2)健康・子育て・福祉分野につきまして、いかがでしょうか。
委員	<p>少子化対策はこの分野だと思いますが、①に結婚も出産も書いてありますので、総合的な施策を行うということは示されていますが、「市民総ぐるみで次世代を育成」では少し弱いのではないかと思います。①は市民も協力して子どもたちを育てる環境を作るということですが、行政が担うべき公的な支援なども色々ありますし、これで本当に少子化対策になるのか、やや弱いと思います。具体的にどう変えるかは施策も関係してきますが、掛川は少子化対策にもっと力を入れるんだということをここで強調できるような表現をご検討いただければと思います。</p>
会長	ここでは、掛川市の意気込みとか、心意気とか、そういった決意を明確にした方がよいのではないかとご指摘ですが、いかがでしょうか。
企画政策部長	<p>少子化対策につきましては、総合的に進めていかなければならないということは重々感じております。総合計画の人口推計では、2040年の合計特殊出生率を2.10と設定しています。そのようなこともありますので、これから20年かけて、子どもが健やかに生まれ育つまちづくりを進めていかなければなりませんので、総合的に進めていくのはもちろんですが、まちづくりの特色として、他市にはないような少子化対策を表現していきたいと思っております。</p>
委員	<p>⑤に、SDGsの観点の「誰ひとり取り残されることのない社会」として、高齢者などを入れましたが、これは行政が行う主な政策の対象者だと思います。実際には、ひきこもりや8050問題の該当者、生活困窮者など、そういう人こそ残さないでほしいと思います。私も家庭教育サポートの懇談会でお母さん達に自由に悩みを打ち明けてもらっていますが、懇談会の来られないお母さんのことが気になります。その人たちが悩みを抱えていたらどうしたらよいのか、地域のつながりも薄くなっているので、そういう方たちのご苦勞が気になります。ですので、孤立化する人をなくす、そこに手を差し伸べるという表現が必要かと思えます。</p>
副市長	掛川市でも、先月末にひきこもり対策協議会を設置し、孤立しないような政策を進めていく予定です。孤独死の対策なども議論されていますので、検討させていただきます。
委員	<p>行政で女性というと、子育てなど子どもとセットで、母親としての女性という捉え方が強くなりがちです。子どもがいると、そこに手厚い支援などが施策として多く示されるのですが、このコロナ禍で、例えばDV、精神的な暴力、非正規のシングル女性の経済的困窮など、ジェンダーに基づく色々な課題が出てきているので、今後具体的な施策を書き込むときに、そういった視点も入れて言及していただきたいと思えます。</p> <p>加えて、LGBTで表される性的マイノリティなど見えない少数派の方々への配慮というのも、施策の中で具体的に触れていただきたいです。性的マイノリティは人口の5～8%と言われていて、掛川市だと6000人位であり、無視できない数だと思います。ですので、少数派、孤立しがちな存在として、ご配慮いただきたいと思えます。</p>
会長	あらゆる境遇に置かれている人々への目くばせが必要だというご指摘ですね。
委員	シングルマザーの方などは、参観会に来られない方も多いと感じています。地域のネットワークの強化と書かれてはいるが、余裕がないとネットワークに参加することがそもそもできない状況にあるのではないかと思います。取り残される女性がいらないような、そんな仕組みを作っていただきたいと思えます。
委員	⑤のデジタル化によりネットワークを強化、というのはつながらないと思えます。デジタル化したから人や地域のネットワークが強化されるということはないです。DXはデジタル化をすることではなくて、業務そのもののオペレーションやプロセスを

発言者	発言内容
	<p>変えることだと思います。先ほどありましたネットワークに参加する余裕がないということも含めて、今の取り組みそのものを、デジタル化を使ってプロセスを変えていくということが必要ではないかと思います。⑤で書かれていることがどのようなことを想定しているのかにもよりますが、⑤のキーワードを具体的に表現する必要があるのではないかと思います。</p>
経営戦略係長	<p>ここのデジタル化の趣旨ですが、今コロナでなかなか会えない中で、連絡手段がデジタル化になっているというのはもちろんなのですが、それだけではなく、デジタル化を進めることによって、補完できないかと考えていました。デジタル化の目的と手段の話がありましたが、デジタル化を進めることでつながるということをしたということと、ある程度効率化されることで、もっと人が人を助けられるようにならないかと考えています。これらがわかるよう、DXという表現も検討する必要があるのではないかと思います。</p>
委員	<p>デジタルツールを使って、物理的な制約や時間的なプロセスを減らすというのは効率化としてあっていると思います。それがコミュニケーションだけではなく、オペレーション自体も変えていくことで余裕が生まれてくる、それがDXだと思います。その2つの観点、デジタル化と、デジタル化を使って業務そのものを変えるとか活動そのものを変革していくという、2つの観点があればよいと思います。</p>
委員	<p>⑤について、デジタル化だけでできるものではないというのはご指摘の通りですので、例えば、デジタル技術を有効に活用し従来の人や地域のネットワークをさらに強化するというような、もともとあるネットワークはデジタル化以外も強化でき、デジタル技術はワンオブゼムだと思いますので、そういった表現であればカバーできるのではないかと思います。</p> <p>また、LGBTの話ですが、多様性を認めるということが今後重要になってくると思います。それは子どもたちでも、社会全体でもそうなので、例えば④を多様性を認めるという表現にすることで、LGBTや様々な状況の人をお互い尊重することになるのではないかと思います。</p>
委員	<p>②の多世代の交流はすごく重要なことです。医療介護で特に問題として取り上げられるのは、地域包括ケアシステムというのは、誰かが作ってくれてマニュアルのようなものという捉え方をされることが多いのですが、実際には住民が参加して自分たちで行うような仕組みという認識なので、住民参加型や住民を巻き込んだ地域包括ケアシステムという言葉にすると、誰かが作ってくれたものにみんなが乗っかるということではなく、住民全体がみんなで作るという認識が高まるようになっていくとよいのではないかと感じました。</p>
委員	<p>教育分野で、保幼小中や中学校校区で人づくりという言葉が出てきましたので、子育て分野においても、①の市民、企業、行政のところに、学区または地域という言葉を入れると、子育て環境などもつながってくるのでよいかと思います。</p> <p>それから5ページの将来人口について、0歳～14歳が5年ごとに1,000人ずつ増えているのに対して、生産人口は減っています。また、実績値を見ても現状は厳しく、全体的に弱いと思います。色々なことを書いているのはよいことで、本当に実践されれば色々な物が高まってくるとは思います。もう少し具体的なものを入れるのと、謳ったからには現在の支援よりも向上させて実現できるといいと思います。地方分散の話もありましたので選ばれるまちになるように、また引きこもりの方のように表には見えない方や、子育てしている中で相談できない状況などもたくさんあると思いますので、相談できる駆け込み寺のような、一歩踏み出せる場所、心の拠り所となるよう</p>

発言者	発言内容
	なしくみがあるとよいと思います。
会長	次の13ページの(3)環境分野につきまして、ご意見いかがでしょうか。
委員	地域循環共生圏という比較的新しい概念が出てきていて、ここでも出てくることも非常にいいことなのですが、①は自然環境保全として絶対に必要なことですが、②の地域循環共生圏の概念が少し違うと思います。地域にある、眠っている資源・ポテンシャルを掘り起こして、環境に配慮しながらそれをニーズのある所に循環して行って、全体として共生し、環境としても保全につながっていく、そういう積極的な概念だと思いますので、②を皆さんにわかりやすく、地域にある資源をみんなで活用していくというような表現にした方がよいと思います。
協働環境部長	概念的な言葉ではありますが、もう少しみ砕いた表現になるよう検討したいと思います。
会長	続く(4)(5)につきましては、(5)のシティプロモーション分野を、(4)の産業・経済分野から切り出しているということもありますので、2つの柱をいっしょにご議論いただければと思います。
委員	<p>今回(4)と(5)の分野に分けたのは大変よかったと思います。従前ですと、そこがごっちゃになっていて、明確に方向性が示されていなかったと感じていたところで、今回そこがよりはっきりしてよかったと思います。</p> <p>(4)の柱に「活力ある産業を生み出す」とありますが、新たに活力あるものを生み出す、単なる産業の開拓や起業支援ではなくて、その先に活力ある産業を新たに生み出すことが地域の活性化につながると思いますので、①のキーワードにも入れた方がよいと思います。</p> <p>それから、DXやワーケーションという言葉が入ってきましたが、あくまでも働き方改革というのは、地元の稼ぐ力、企業も個人も含めてですが、いかに維持・向上させていくのか、手段でしかありません。これから掛川市がいかに生活向上のために具体的に施策に落とししていくか、令和3年度の基本計画の中で具体化されていく部分ではありますが、来年スタートしていきなり立ち上がるものでもないで、この議論は今から同時並行で進めていただければと思います。</p>
産業経済部長	産業を生み出すということですが、ウィズコロナ・ポストコロナで社会が大きく変わっていますので、現在の産業以外にも広げていくということで配慮して参ります。
委員	<p>この分野は、意欲的に変えていただけてすごくよいと思います。特に、人が重要な資源で、そこが活力につながっていくということは大変よいことだと思います。</p> <p>しかし、あまりに掛川市内にとらわれ過ぎているのではないかと感じます。掛川の強みは人で、それを活かしていくということですが、一方で弱点として、東京あるいは世界とつながりながら活力ある新しい物を生み出す、特に今後は脱炭素化社会で自動車が変革するという中で、掛川は非常に厳しい状況に置かれる可能性があります。そういった状況を打開するためにも、内部の人材の価値もそうですが、外とのつながりを掛川市が他市に勝る形でやれるかどうか非常に重要な問題だと思うので、活力ある産業を生み出す方法を考えていく必要があると思います。</p>
会長	①にかかる部分かと思いますが、より積極的に何か打ち出すということについていかがでしょうか。
産業経済部長	掛川市には製造業が大変多くあり、変換的なことも考えなくてはいけないと思います。市長からも企業誘致について角度を変えるということで、今までどうしても製造業が強い部分がありましたが、環境を含めた部分で方向転換していくことを模索しています。そういった部分を含め、基本構想に文言を入れるか、実施計画の中で変えて

発言者	発言内容
	いくつか検討したいと思います。
委員	前回の皆様の意見を反映させた形に検討いただいたと感じております。(4)②で、ポストコロナ社会の視点の地域内で循環する持続可能な社会ということ盛り込まれたと思います。地域内の循環というのはものすごく大事ですけれども、外から物を買ったり、掛川市で生産したものを外に販売したりすることによって所得を得ている部分も大きいと思います。そのため、外とのつながりというところも考慮していくことも大切かと思ひます。
会長	②について、地域内の経済の好循環であり当然大事なことでありますが、一方で地域外との関わりについて文言が足りないのではというご指摘ですが、いかがでしょうか。
産業経済部長	従来から海外との取引が製造業等含めてかなりありますので、(4)①の「世界につながる活力ある産業を生み出します」という部分に思いを込めています。(4)②については、(3)③の地域新電力会社のような環境分野も含めた形で地域内循環ということで書き出しています。ご意見をいただいた部分について、再度考慮していきたいと思ひます。
委員	(4)②と(5)①がつながると思ひます。モノやコトは、中で経済循環するのがよいと思ひますが、ヒトについては、掛川の経済圏の中だけで閉じるのではなくて、リモートワークなど色々な働き方で、色々な人達が掛川市に関わるということが重要だと思ひます。そういう意味では、関係人口というのが、純粹にコミュニティとしての関係という意味ではなくて、(4)の新しい技術や多様な働き方という部分に関係してくると期待しています。(4)②の「更なる充実と連携」は、掛川経済圏の中の連携なのか、中と外の連携なのか、このあたりの表現を明確に書けばわかりやすくなると思ひます。
委員	(5)「魅力ある暮らし」は、だれもが住みたくなる、希望が見える、移住したくなるという意味だと思ひますが、「魅力ある暮らし」というのはそもそも、一人一人が幸せ感や豊かさなどの多様な価値観がある中で、自分にとって生きがいのある暮らしをしていて、その一つ一つが集まって「魅力ある暮らし」が外から見えるということだと思ひます。そうしたときに、それに対応して、①の「地域の魅力を生かして」というところに少し違和感を感じました。地域の魅力を生かしてというよりも、地域にあるものの中で、自分たちが暮らしていく中で、外から魅力ある暮らしに映るということだと思ひます。色々な人の暮らしを見える化して、魅力ある掛川をPRするというように思ひるので、柱と①に少しつながりが感じられないと思ひます。
産業経済部長	魅力ある暮らしは、今から力を入れていかなければいけない部分として、環境や文化、掛川市は文化の民度が高いと思ひますし、環境もすばらしいので、こういった部分で掛川に暮らしているいいねと皆さんに思ひいただき、関係人口や移住・定住などの増加を目指しています。柱と①の表現については、わかりやすくなるよう再考して参ります。
委員	(4)④について、農業は人手不足や高齢化により苦戦している事業者が多いと感じています。特にお茶については、良い企業と厳しい企業と二極化していると感じます。その中で、耕作放棄地が増えており、こうしたことを解決していかないと「世界に誇れるお茶のまち」というのは厳しいと思ひますし、お茶農業従事者が見たときに現実的ではないという印象を受けます。理想ではあります、事業を継続していきたいという気持ちになるような施策、救済していくというような表現ができないかを感じました。

発言者	発言内容
産業経済部長	<p>耕作放棄地の問題は農業の大きな課題となっており、お茶やそれ以外の農作物についても大きな課題となっています。お茶については、茶を生産するだけでなく、観光・農泊などまずは色々な形で交流してもらい、茶草場農法など色々なものを発信していますので、そういったものを見に来てもらい、そこに付加価値をつけて6次産業化して関係人口を作り、移住・定住したくなるような施策を打とうとしています。</p> <p>(4)④の表現として、「力強い農業」は農業振興ビジョンにある言葉を用いており、「世界に誇れる茶業」は海外輸出向けということで、実施計画の中では色々と表現していきたいと思いますが、今回はこの2つの表現を使わせていただきたいと思っています。</p>
会長	<p>(6)安全・安心・都市基盤分野についてご意見・ご提案がありましたお願いいたします。</p>
委員	<p>(6)⑤については、自助について書かれていると思いますが、ほかのところでもネットワークの強化や地域のつながりの話があるので、共助についても、デジタル化することにより、情報が瞬時に共有できるとか、個人個人に沿った情報が得られることで、自分自身の避難もそうですが、コミュニティの人を助けに行くといった共助の部分もあると思います。このあたりの考えや方針などがあれば、記載していただくとよいのではないかと思います。</p>
危機管理監	<p>この部分では、自助の部分がメインとなっていますが、情報を発信して、皆さんで共助の部分を進めていくということも読み取れるように修正したいと思います。</p>
委員	<p>2点あります。1点目として、デジタル技術を災害時に活用することは、的確な情報提供も重要ですし、状況を正しく把握して対策を打つことにおいても極めて有効だと思います。繰り返しになりますが、行政内の情報把握とデータに基づく対策を打つ、周辺市町、県、国との情報連携ということがより重要だと思います。⑤に加えると目的が別なことを1文入れることになるので、もう1つ項目を立てるなどして入れるとよいと思いました。</p> <p>2つ目として、③の「地方分散の流れを受け」とありますが、ほかの自治体も同じような表現を使っているのですが、コロナだからといって、決して地方分散の流れは今できていないです。それを、あたかも自然に地方分散ができているという前提で物事を考えている自治体の方が多いですが、そうではなく、がんばれば地方にも人を呼び込めるかもしれないけど、おのずと地方分散が起きているわけではないという認識に改めたほうがよいと思います。地方分散のチャンスではあるけれども、自然に起きていることではない、努力しないと地方分散にはならないという前提で物事を考えたほうがよいと思います。</p>
副市長	<p>地方分散については、おっしゃるとおり放っておけばそういった流れができるわけではないと思います。ですので、我々としても「選ばれるまち」という視点で作っており、この表現は「地方分散の受け皿となりうるような」という方向で調整したいと思います。</p>
委員	<p>「受け皿」というと、地方分散が起きているからその受け皿という受け身な感じがしてしまいますので、人を呼び込む、もう東京や大阪、名古屋に住まなくてもここに住んで働いて幸せに暮らそうという、積極的・能動的な動きが必要だと思います。</p>
副市長	<p>積極的な動きを起こす、ということで進めて参ります。</p>
委員	<p>災害や今回のコロナにおいては、行政が主体となる分野と、地域が主体となる分野を構築する必要があると思います。①に、みんなが助け合うような仕組みも作っていかなくてはいけないということが明記されるとよいと思います。</p>

発言者	発言内容
	<p>また、例えばコロナが発生したときに、住民のコロナに対する理解と風評被害等を防止するような取り組みをしておく必要があると思います。行政が何もかもやってくれるという印象ではなく、市民が参画して意識を高めていくということ、「災害」や「安心な暮らし」の中に盛り込めるとよいと思います。</p>
危機管理監	<p>文章の中で、自助・共助・公助ということが読み取れるようにしていきたいと思います。</p>
委員	<p>(7)にも関連することですが、今回のコロナで、他の自治体では感染者が出て、市役所の一部や窓口を一定期間閉鎖するということが起きています。これに対応するためには、職員のリモートワーク環境を早急に整備する必要がありますが、そのためには端末の用意やセキュリティ対策もありますが、内部業務をデジタルですべて行うことができる「デジタル完結」にすることが重要だと思います。これは平時の対応としても、子育てや介護をしながら柔軟に働けるということにもなります。また、コロナや自然災害が起きたときに、来庁しなくても一定程度の業務は遂行できることにつながりますし、地震や津波などで被災したときに、市役所の職員は現場対応に追われるので、日常業務は他の自治体がバックアップとしてリモートで補うということにもなります。リモートワークを実現するための内部業務の「デジタル完結」ということで、「行政DX」という言葉になるとと思いますが、(6)と(7)の両方に書いておく必要があると思います。これはコロナで明らかになったことなので、コロナ改定版では書いておく必要があるかと思いました。</p>
会長	<p>コロナもそうだと思いますが、非常事態が起きたときに対応できるように、職員のリモートワーク環境を整備する必要があるということですがいかがでしょうか。</p>
副市長	<p>庁内のデジタル化の関係ですが、掛川市も1月から基本的に電子決裁が始まり、これまでハンコ決裁していたものが、電子決裁化されます。また、市民が市役所で色々な手続きをされる場合も、ハンコが本当に必要なのかということで、手続きの洗い出しと電子化を検討しています。そういったことも踏まえて、今のご指摘は防災面も含めてつながるといった話だと思いますので、記載方法を検討して参ります。</p>
会長	<p>(7)協働・広域・行政分野についてご意見・ご提案がありましたお願いいたします。</p>
委員	<p>③の「DX」について、方向性を見ると「行政内部の積極的なDX」と書いてあるのでよいと思いますが、キーワードでは「積極的なDX」となっているので、ここは「行政DX」と明記してもよいと思いました。それから、③の方向性の書き方は、内部業務のDXが重要なのでこれでよいと思いますが、その結果、業務処理が速くなったり、オンライン手続きがやりやすくなって住民サービスが向上したり、いろいろメリットはあります。内部のDXをやるといって、市民からの反発を招くケースもあるので、市民サービスを向上させるための内部業務のDXだということを、今後施策を打つときに説明していくといいかと思いました。</p>
会長	<p>基本計画の作り込みの際には、ご検討いただきますようお願いいたします。</p>
委員	<p>基本理念に「誰もが支えあい役立ちあう」とありますが、①の「役立ちあい支えあう」は逆転しているので、言い方を統一していただければと思います。特に「役立ちあう」というのは、生涯学習の成果が表に出ていると思い、色々な学びが、人を支えていくことで表に出てきて、それが役に立っているということだと思います。そのため、戦略の柱に「誰もが支えあい役立ちあう」という言葉を入れていただければと思います。</p> <p>また、「協働と連携により」とありますが、「連携と協働」ではないかなと思います。行政文書では「連携・協働」と書かれていることがありますが、「連携」という</p>

発言者	発言内容
	とつながりとかネットワークという感じがあり、それを豊かにして「協働」して同じ目的のために対等につながって協力して動いていくという感じがしますので、ここは逆ではないかと思えます。
会 長	今のご指摘の点、「役立ちあう」ということと「連携と協働」の話については、事務局で検討いただければと思います。
委 員	<p>(7)①の「デジタル化と人地域のネットワークによる」とありますが、「デジタル化」が目的ではなく、「市民相互や行政との情報共有の仕組み」を作るためのツールとして「デジタル化」を進めるということだと思います。全体的に「デジタル化」と「人とのつながりの強化」が一体で表現されていることが非常に多いのですが、ニュアンスとしては違うのではないかと思います。</p> <p>もう1点、戦略の柱の「協働と連携により誰もが支えあう地域社会を創り」という部分はよいと思いますが、その後の「世界とつながるまち」というのはどこに表現されているのか分からないので教えてください。</p>
企画政策部長	<p>「デジタル化」の関係ですが、前回の審議会でも委員さんから目的ではないということで、各所修正したつもりでございましたが、まだ十分表現できていないようなので、今回の文脈につきましても、正しく伝わるように修正をしたいと思います。</p> <p>もう1点、「世界とつながるまち」というのは、いろいろな意味がございます。①にあります、「性別、国籍を超えた積極的な参画」が「デジタル化」によって可能になったり、あるいはそういった一人一人の心がけによって新しい行動様式が生まれてきたりというようなこともイメージしております。ただ物理的な移動ということを表しているのではないですが、少し表現が分かりにくいかなと思いますので、庁内で具体的な基本計画の表現を睨みながら、どういう文面がよいのか検討させていただきたいと思えます。</p>
委 員	④の「公共施設等の適正化」について、一般的に施設の集約のような財政的な対応ということで使われることが多いのですが、新しい生活様式とか、これまで議論してきたような多様な状況に置かれた方にサービスを届けるということになると、ハードの話だけではないかと思えます。ですので、公共施設そのものをハードとして提供する部分もありますし、例えば、図書館とかデジタル的なコンテンツを提供するなど、ソフトの部分でサービスを提供することもあると思えます。この文章だと、どこまでを考えられているかわからなかったのが指摘させていただきます。
企画政策部長	④については、掛川市として公共施設の再配置方針を定めておりまして、文脈の中では主にハードのことを表現しております。再配置方針では、複合化・統合化して新しい価値を生み出すようなハードをイメージしておりますが、委員がおっしゃったように、ここではもう少しプラス思考で考えて、ソフト面のところも併せて充実をしていくという表現が可能かどうか内部で検討させていただきます。
会 長	最後に、戦略の(1)から(7)について、他にご提案がある方がいらっしゃれば、ご発言いただければと思います。
委 員	5ページに将来人口推計があり、他の委員の方からも子供の数は増えて書かれていますとご発言がありました。出生率を2.1に上げるとおっしゃっていましたが、国全体の推計だと、2020年から2040年まで14歳以下の人口はマイナス20%の推計です。それに対して掛川の目標値は、2040年にはプラス20%という目標を立てています。つまり、ふつうにいけばマイナス20%になるところを、プラス20%にもっていこうとするには、かなり力を入れて、できることは何でもやらないとこの目標はとうてい実現できないくらいのごい目標だということは、関係者の方に認識していただき

発言者	発言内容
	<p>いです。今のままの流れでこのようになるということは決してなく、国のマイナス20%に対してプラス20%というのはふつうなら設定できないくらいの目標です。現状維持がせいぜいいいところだと思うので、かなりチャレンジングな目標だということを皆さんに認識していただければと思います。</p>
会長	<p>これは、大変な目標を掲げていらっしゃるなど、私も正直思っておりました。</p>
企画政策部長	<p>人口目標の設定につきましては、平成27年に設定した数値で、そのときも同様の意見をいただいています。当時、全国的に地域創生戦略を全国の自治体で策定していくときに、県内でも掛川ほど野心的な計画を作った自治体はございません。ただ、市長も申し上げておりますが、掛川のような交通インフラが整っていて、居住環境の良いところに人が集積しなければ、人口減少自体が止まらないという視点もあり、このような目標を設定させていただいております。基本計画を策定していく中で、どのようなことを進めていけばよいのかご意見をいただきたいと思いますと思っております。</p>
委員	<p>そういった覚悟があるということを知ってよかったです。</p>
委員	<p>(1)②の「生涯にわたって学び」という文章について、先ほど基本理念にもある「役立ちあう」というということが生涯学習の成果ではというお話もありましたが、生涯学習はただ学ぶことではなく、学んだことがそれを実践する中で人や地域のために役立っていくということが、生涯学習のまちづくりということでしたので、「生涯にわたって学び」というところに、学んだことが人の役に立つというような言葉が入ってもいいのではと感じました。基本理念に「役立ちあう」という言葉があるので、ただ単純に自分で自己実現のために学ぶのではなく、学んだ成果が人のためにも役に立って、豊かな生活になっていくというところが、ここで感じられるといいのかと思いました。</p>
会長	<p>皆様、ありがとうございました。</p> <p>先ほど事務局から話がありまして、今日の皆様のお話を受けまして、1月18日に議会に中間報告をし、その後18日から1か月ほどパブリックコメントを受けるといことになっております。それを受けて、次の審議会が設けられるということですので、皆様にもご承知おきいただければと思います。</p> <p>それでは、本日の議事は以上とさせていただきます。</p>
4 その他	
市長	<p>ありがとうございました。色々なご意見をお聞きして、直すべきところはしっかりと進めていきたいと思っております。</p> <p>基本構想ということで、表現が少し抽象的になっていることもあります。この基本構想を前面に出して、これからどう進んでいくのかということと考えますと、基本構想であっても、少し具体的な例示的なことが散りばめてあった方が、この構想としての表現力や完成度が高くなるのではないかと、今日のご指摘を受けて感じました。</p> <p>それから人口問題ですが、大変高い目標設定をしております。通常を考えますと、今の掛川市の合計特殊出生率は1.64で、これを2.10にするということは、ふつうに考えればなかなか達成が難しいだろうと思っております。ただ私が考えてきたことは、ほかの自治体は、社人研が言っているような数値をそのまま使っています。2040年にだいたい8割くらいの人口になる。しかし、そういうまちづくりを進めるのではなくて、掛川市のように大変すばらしい交通アクセスを持っていて、自然環境がすばらしく、東京と大阪の真ん中にあるということは、これから地方分散になった場合に、住みたくなる施策をしっかりと展開していければ、私は一定の人口、12万人は確保できるのではないかと考えています。それから、今人口が減っている原因として、外国人が</p>

発言者	発言内容
	<p>かなり減ってきました。仕事の関係で減っているかと思いますが、これが安定すれば外国人がかなり増えてくるというようなことをトータルで考えて、すばらしい施策をこれから展開して、かなりハードルは高いですが、こういう目標をもって、この日本の中心地である掛川市は前に進んでいきたい、こういう思いがあってこの数値設定をしました。ハードルが高いということは重々承知です。人口が減らないという総合計画を作っているのは、県内でも掛川市ともう1・2か所しかないようですが、ぜひ掛川市民の英知を結集しながら、すばらしい掛川づくりができれば、人口もおのずと今の12万人をキープできるのではないかと考えています。そのためには、子どもがたくさん生まれ育つ、そういうすばらしい環境、それから働く場所がある、掛川で学びたい、そういう状況をこの基本構想でしっかりと打ち出し、いろいろな方が東京から来るし、子どもの数も今よりも増えるだろう、そういうことを期待しながら、すばらしい基本構想をつくっていきたいと思っています。それは、従来の行政のものの考え方でこれから進んでいくのではなく、ドラスティックにいろいろなことが変わっていく、デジタル化を含めてものすごく変わっていく、そういう変革を行政がしっかりと把握して、それを施策として展開をしていく、こういう思いでこの基本構想の策定作業を進めております。あと1回の審議会で答申をいただけるというスケジュールですので、いいものになるように、私どもも皆様の意見を十分しっかりと受け止めて、次回にはしっかりと説明できるようにしていきたいと思っています。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>
5 閉 会	
事務局	<p>皆様、ありがとうございました。</p> <p>本日いただきましたご意見は、改めて庁内で検討をして整え、12月18日に議会での説明を行い、その後、1月17日まで1か月間でパブリックコメントを募集する予定です。</p> <p>第3回目の審議会は1月18日となります。基本構想の改定案の諮問をしていただき、ご審議をいただきたく存じます。</p> <p>以上をもちまして、第2回審議会を閉会いたします。ありがとうございました。</p>